

ジオパークの魅力を発信する「ジオガイド」紹介



公益社団法人日本地球惑星科学連合
教育検討委員会委員
阿部 國廣さん

長年にわたり斐伊川・宍道湖の水質を調査・考察

東京で生まれ育ち、教員となって川崎市の小学校で教鞭を執った阿部さん。専門の理科専科のなかでも堆積学に関心が深く、奥多摩から河口までの多摩川の地形や歴史、川の働きを研究し、子どもたちに河川の流れが平野を形成し、そこに暮らしが立ち産業が発達したことを教えてくれました。定年を機に17年前松江市にIターン。研究のフィールドは斐伊川に変わり、現在は「身近な水環境の全国一斉調査」に参画し、ここ十数年は宍道湖に流入する河口20カ所の水質の定点観測に当たっています。その調査結果から「斐伊川や宍道湖の水質が変わってきている」と阿部さんは言います。「化学的酸素要求量COD値が調査を始めた頃より上がっています。水中の有機物などの汚れの度合いを示す指標ですが、これが高いと水生生物が棲みにくなりアオコが発生するなど水質汚染が進行し生態系に影響を与える」と心配します。Iターンした頃は宍道湖岸に四十万川でも採れるスジアオリがあり、それを採って焼いて食べたといいますが今はありません。「宍道湖七珍」も同様で今の水質は「生物多様性にとっては厳しい」と言います。

日本地球惑星科学連合に所属する阿部さんは教育検討委員会の活動を通して、こうした環境変化をどのように子どもたちに伝えるか、全国の研究者らと知恵を絞っています。出雲科学館で開かれる「青少年のための科学の祭典」では自作の「流水による出雲平野のでき方実験装置」で子どもたちに6000年前頃から実際に起こったダイナミックな河川と土地の動きを再現して紹介しました。「出雲地方は歴史跡が目に見える形で残っていますから、ジオにも歴史学という視点を取り入れ、さらにそこに暮らす人々はその土地でどう生き続けてきたのか考察していきたい」と、これからの研究の方向を話していただきました。

ジオガイドの皆さんはジオパークの魅力を伝えるために欠かせない人々です。



阿部さん自作「流水による出雲平野のでき方実験装置」。かつて屋外で実験した時はベニヤ板 8 枚分あったそうですが、こちらは屋内用。それでもベニヤ板 3 枚分の大きさがあります。



小泉八雲とセツが見たジオの風景②



小泉八雲とセツが見たジオの風景

八雲とセツは、松江市や出雲市にある貴重な地質遺産に出向き『知られぬ日本の面影』でその情景をしたためています。本通信3号にわたり「加賀の潜戸」「出雲(杵築)大社、日御碕」「美保関」での旅の様子をご紹介します。

【出雲(杵築)大社、日御碕】

1890(明治23)年9月、松江に来て間もない八雲は、明治の初めまで「杵築大社」と呼ばれていた出雲大社をめざしました。出雲市斐川町の莊原まで小型蒸気船で行き、そこから人力車で杵築に向かいました。

八雲の大社参拝は、西田千太郎(島根県尋常中学校教頭で八雲と親交が深かった人物)の紹介もあり、特別に第81代出雲国造の千家尊紀宮司と面会し、本殿の昇殿が許されました。社務所で火鑽臼・火鑽杵(火起こしの道具)や琴板(古代楽器)など貴重な資料を見せてもらい、千家邸で歓待を受けました。

1891(明治24)年の7月末から半月程度、八雲はセツや西田千太郎とともに、大社の町に滞在しました。海が好きな八雲は稲佐の浜で海水浴を楽しみ、この場所を大国主命の国譲りなど神話ゆかりの神聖な地として紹介し、そこで見た精霊船の美しさも記しています。

同年8月の出雲大社滞在時に、西洋人でまだ訪れた者はいないだろうからと勧められ、稲佐の浜から手漕ぎの小船で日御碕へ向かいました。日御碕神社を参拝し、小野尊光宮司にもてなされ、この時初めてもずくを食べたそうです。後に絶景と日御碕神社を世界に紹介しています。

八雲はこの時の様子を「杵築」「日御碕」で記しています。

【参考文献】

『小泉八雲の足跡探訪 松江出雲隠岐諸島の旅』 島根半島四十二浦巡り再発見研究会
『神々の国の首都に住まふ443日』 小泉八雲記念館
「しまね観光ナビホームページ」 公益社団法人島根県観光連盟



出雲大社御本殿



日御碕神社

発行者：島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会

【松江市役所 文化振興課 ジオパーク推進室】

〒690-8540 島根県松江市末次町 86 番地

TEL：0852-55-5399

E-mail：kunikiki-geopark@city.matsue.lg.jp

【出雲市役所 文化財課】

〒693-0011 島根県出雲市大津町 2760 番地

出雲弥生の森博物館内

TEL：0853-25-1841

E-mail：yayoi@city.izumo.lg.jp



島根半島・宍道湖中海ジオパーク



日本ジオパークネットワーク



島根半島・宍道湖中海

ジオパーク通信

出雲国風土記の
自然と歴史に出会う大地

ジオパーク推進協議会会員の紹介/地質サイト見どころ紹介……………1
ジオパーク推進協議会の活動……………2
島根半島・宍道湖中海ジオパークと人々の営み/ユネスコ世界ジオパーク紹介……3
ジオガイド紹介/小泉八雲とセツが見たジオの風景②……………4

2025.11
Vol.12

ジオパーク推進協議会会員の紹介

モニュメント・ミュージアム

来待ストーン

来待石でつくられた神社の
こまめ
狛犬は迫力ありますね!



来待ストーン学芸員

ふるかわ ひろこ

古川 寛子さん

や宍道の人々の副業として近在の暮らしや経済を支えていました」と来待ストーン学芸員の古川さんは言います。

来待ストーンは1996(平成8)年に開館し来年30周年を迎えます。ミュージアムでは石の匠たちのオブジェ展示やシアター映像で来待石の採石方法や加工の技を分かりやすく紹介していますが、圧巻はやはり採石場跡。ミュージアム前の広場と石のトンネル西側の2カ所あり、高さ20メートルもある来待石の切り出された石の壁はまさにモニュメントと呼ぶにふさわしいものです。また来待石工房では彫刻体験や時計・ペンダント作り体験ができます。

「ありふれていてその価値に気付きにくい来待石ですが、培ってきた歴史文化は大きく深く、ジオの視点からも学べることはいっぱいです」と話していただきました。



モニュメント・ミュージアム
来待ストーンホームページ



来待石の岩盤を貫くトンネルを抜けると来待石の採石場跡が現れます。



ミュージアム館内の展示では様々な鉱物標本も見られます。



海岸線を綱に見立てるなんて、古代の人はとても発想が豊かですね!

地質サイト見どころ紹介 シリーズ 12 「出雲砂丘」

大社湾の海岸線はその「蘭の長浜」として知られ、その内陸側は標高20～40mの松で覆われた丘陵地になっています。この丘陵地は、3つの風成砂層でできており、最下位の風成砂層は大山松江軽石(約13万年前に降下)に覆われており、12万年前の間氷期より古い時代の氷期に形成されています。中位の風成砂層からは三瓶木次軽石(約11万年前に降下)、三瓶雲南軽石、始良火山灰(約2万9千年前～2万6千年前)が観察され、最終氷期まで及んでいます。上位層は最終間氷期の温暖期のもので、高海水面に対応して形成された段丘をなしています。

海岸から約2.2km内陸にある浜山砂丘は、縄文時代の高海水準期に、神戸川や西流していた斐伊川が海岸に運んだ大量の砂が強い西風で吹き上げられて形成されました。

また、蘭の長浜は、『出雲国風土記』では「八束水臣津野命が持ち引ける綱は蘭の長浜なり」として、志羅紀の三崎より国を引いた」とされる国引き神話の舞台です。三瓶山は国引きの時、綱を結んだ杭とされています。

島根半島・宍道湖中海ジオパークは、当地域の地形が完成するまでの過程を科学的背景とし、そこに暮らし始めた古代人の自然観に思いを馳せられることが最大の特徴です。多くの人にお越しいただき、「国引き神話と大地の成り立ちがつながる神秘のエリア」を体験していただければと思います。



海岸線が「蘭の長浜」(奥に見えるのが三瓶山)



蘭の長浜(近景)

ジオパーク推進協議会の活動

○小泉八雲とセツの足跡を辿るジオの旅

小泉八雲と妻のセツは当ジオパークの貴重な地質遺産などを巡り、『知られぬ日本の面影』でその情景をしたためています。八雲たちとのつながりから地質遺産や景観に関心を持ってもらうため、今年度はジオガイドの案内による八雲たちの足跡を辿るツアーを「日御碕(出雲市大社町)」「美保関(松江市美保関町)」「出雲大社」で開催しています。

8月7日(木)に開催した「日御碕」編は10名の参加があり、八雲が稲佐の浜から船で訪れた日御碕神社などを巡るとともに、昼食は八雲も食べた「もずく」のスープや酢の物などをことぶき荘で美味しくいただきました。

9月20日(土)に開催した「美保関」編は20名の参加があり、八雲が訪れた美保神社や宿泊した島屋跡地の公園などを巡りました。

参加者から「丁寧に説明してもらった」「盛りだくさんでとても楽しめた」などの感想をいただきました。

○ジオパーク探検隊 立久恵峡満喫ツアー

ジオパーク探検隊 島根町野井で日本海を楽しもう!



神戸川でのアユのつかみどり



島根町野井での船釣り体験

当ジオパークの貴重な地質遺産の素晴らしさを知ってもらうことで、将来にわたって守っていかうという気持ちやふるさとへの愛着を持ってもらうために、2つの自然体験イベントを開催しました。

8月22日(金)には出雲市の立久恵峡で開催し、14組38名の家族連れが参加しました。

最初にジオガイドの案内で立久恵峡を歩き、長い年月をかけて神戸川によって削られてできた奇岩柱石や修験の場であった霊光寺、五百羅漢を見て回りました。

続いて、くびき自然学校に協力いただき、神戸川でアユのつかみどりと川遊びを楽しみました。参加者の皆さんは捕まえたアユの塩焼きなどで昼食をとり、「最高に美味しい」と満足していました。

9月6日(土)と7日(日)には、松江市島根町野井で開催し、6組12名の家族連れが参加しました。

最初にSDGs学習会を受け、株式会社永幸丸協力のもと6日は船釣り体験、7日はクルージング、下船後はウニやサザエ、イカをさばく体験をし、海鮮バーベキューを楽しみました。普段できない貴重な体験ができたのではないのでしょうか。

○日本ジオパーク全国大会十勝岳大会

第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会が9月27日(土)、28日(日)に北海道美瑛町と上富良野町を会場に開催され、全国から650名を超える参加がありました。

「地球に学び、未来を育む」をテーマに、この地球(ほし)で生きる私たちが授受する影響について再認識し、全国の仲間とともに次世代を担う人材の育成や持続可能な未来を創る一助になる場を目指して、基調講演や分科会、パネルディスカッション、口頭発表、ポスター発表などが行われました。

参加者による活発な意見交換や情報交換が行われ、大会の成果を各ジオパークが持ち帰り、今後の活動に反映されます。

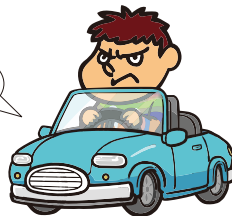


開会式会場の様子



島根大学の入月教授と学生の濱田さん(写真左)がポスター発表に参加

今年度取り組んだ主な活動を報告します。



日御碕神社でのガイドの様子



美保関の小泉八雲記念公園でのガイドの様子

島根半島・宍道湖中海ジオパークのジオストーリー ～大地とそれに関連する生物・生態や人々の営みの物語～ 島根半島と北前船、四十二浦巡り

約2000～1800万年前、日本列島になる大地は大陸の東端にあり、やがて大陸から分離しはじめ、約1800～1600万年前には日本海が形成されました。約1500～1000万年前には急激に隆起した中国山地からまだ深い海の中にあった島根半島側へ土砂や岩石が流入し、やがて半島になるところも火山活動を伴って隆起したことで、1100万年前頃になると松江の周辺は内湾のような状態になり、1000万年前には完全に陸化しました。

こうにして形成されたリアス海岸の入り組んだ地形の島根半島は船の寄港に適していたため、松江藩港の加賀港(松江市島根町)や宇龍港(出雲市大社町)、風待ち港の鷺浦(出雲市大社町)や雲津浦(松江市美保関町)、このほか美保関が江戸時代中期から明治時代にかけて日本海海運で活躍した北前船の寄港地となっていました。

また、島根半島には、西側の出雲大社から東側の美保神社までの沿岸に点在する四十二の浦々で潮水を少量ずつ汲み、神社を参拝しながら巡る信仰習俗が生まれ、江戸時代末期になると一畑薬師に潮水を奉納するようになり、結願地としてみなされるようになりました。

島根半島は、大地の複雑な変動要因が組み合わさって形成され、それらの大地の痕跡は貴重な地質遺産であるとともに、人々の歴史や文化が育まれてきた場所です。ジオパーク活動を通じてこれらの魅力を発信しています。



ばくも洞爺湖有珠山ジオパークに行ってみよう!

ユネスコ世界ジオパーク洞爺湖有珠山ジオパーク紹介 北海道伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町

～変動する大地との共生～

洞爺湖有珠山ジオパークは、北海道の南西に位置する伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町の1市3町からなります。火山活動が盛んな地域で、エリアの中心には約11万年前の巨大噴火によりできたくぼ地に水がたまり誕生したカルデラ湖・洞爺湖、その南岸には1～2万年前に誕生した有珠山があります。(写真1)

有珠山は近年20～50年ごとに繰り返し噴火してきた活火山です。有珠山周辺は、生活圏と火山が近接しているため、火山と共生してきた地域であり、次の噴火が起きた際に適切な行動をとって被害を最小限に抑えられるよう「減災教育」に力をいれています。減災教育活動を支える取り組みの一つに、地域の減災リーダーを認定する「洞爺湖有珠火山マイスター制度」

があり、有珠山に関する正しい知識や噴火

の記憶を、世代を超えて継承しています。また、噴火の記憶の一つとして、噴火当時被害があった建物や道路を残し、散策路として整備しています。減災について学ぶ場として、全国の小学生や中学生が修学旅行で訪れています。(写真2)

火山活動は恐ろしいだけでなく、美しい食べ物や温泉など、私たちに多くの恵みをもたらしてくれます。ぜひ洞爺湖有珠山ジオパークへ遊びに来てください!(写真3)



【写真1】有珠山(手前)と洞爺湖(奥)



【写真2】洞爺湖有珠火山マイスターによる減災教育の様子



【写真3】1910年に起きた有珠山の噴火により誕生した洞爺湖温泉

ジオパークは大地の成り立ちと、人々の関わりを知ることができます。



潮汲み



唯浦(出雲市美保町)



惣津浦(松江市美保関町)